

OECDエコノミック・アウトルック96の公表について

平成26年11月25日

本日、OECDはエコノミック・アウトルック96を公表しました。概要は下記の通りです。

主要国・地域の実質GDP成長率見通し

	2013年（実績）	2014年	2015年	2016年
日本	1.5%	0.4% (0.9)	0.8% (1.1)	1.0%
米国	2.2%	2.2% (2.1)	3.1% (3.1)	3.0%
ユーロ圏	▲0.4%	0.8% (0.8)	1.1% (1.2)	1.7%
中国	7.7%	7.3% (7.4)	7.1% (7.3)	6.9%

注；（ ）内は前回公表時（経済見通し中間評価；本年9月）の計数

（概要）

- ・ 世界経済の緩やかな回復という見通しに、先進国、新興国両方において、ばらつきが生じつつある。先進国では、日本やユーロ圏よりも米英の成長が高まるものと見られ、新興国では、中国の成長率が下がる一方、インド等では堅調に回復するものと見られている。
- ・ 我が国について見ると、消費増税後の消費等の戻りの遅れの影響もあって、前回9月見通しよりも成長率は引き下げられている。労働市場の改善、更なる金融緩和、円安による輸出の伸び等により、2015年以降緩やかに景気は回復していくものと見ている。
- ・ 今回の消費税率引上げの延期により、2020年度の基礎的財政収支の黒字化という目標達成のため、歳入面での改革、詳細かつ信頼できる財政健全化策の重要性が高まっている。また、財政再建の影響を和らげるという観点からも、構造改革による成長底上げが一層重要となっている。
- ・ 我が国景気の先行きリスクとして、非正規雇用の増加を背景に賃金上昇が緩やかなこと、世界経済の脆弱さ、高い公的債務水準に伴うリスクを挙げている。

（注）OECDエコノミック・アウトルックは年2回公表（中間評価も含めると年4回）されるOECDによる世界経済見通しです。なお、引用等に当たっては、必ず本文をご参照下さい。